

職員の皆さんへ。

去る 2 月に、それまで皆さんに対して述べさせて頂いていた「市長訓示」について 100 回を機に筆を置き、以後は折にふれてお伝えしたい情報や体験などをお届けすることとしていました。

そこで今回から、皆さんとのふれあいをこれからも一層大切にとの思いから自分自身にも言い聞かせる意味を込めて、あえて「市長のつぶやき」として、それ風に呟いてみました。ご了承ください。

“市長のつぶやき”

「人生で背負う荷物の種類と重さについて」

5月の季節行事として子どもの節句祝いがある。私もいくつかご招待を受けたが、その中の40代前半で共働きのご夫婦から3人目のお子さんの端午の節句のお席に招かれ、お祝いのことばを述べる機会をいただいた。

そして思いつくままに、次のような励ましのことばを贈った。

『その昔徳川家康の遺訓に「人の一生は、重荷を負うて遠き道をゆくがごとし。急ぐべからず。・・・」というのがありますが、まさにその通りでして、これに私なりの解釈を加えると、要はどのような種類や重さの荷物を背負うかで人生そのものが変わってくると思います。

誰しも子どもは小学校一年生になれば、楽しみに待っていた真新しいランドセルを背負って登校します。その後も成長を遂げるにしたがい果てしなく夢を描くようになるにつれて、将来に向けてその夢に叶うだけの荷物を背負う努力が求められることとなります。人生とはこの繰り返しです。

今回お二人は3人目の子宝に恵まれ、すでにそれぞれにお子たちの人生を背負っておられますが、それは2人背負うことと3人背負うことでは世界観がまた一つ変わってくることになると思います。

お互いに親は、子どもを授かることで自分自身が勉強させられますが、その内容が1人よりも2人、2人よりも3人と幅が広がり内容も彩りや濃さにおいて、自らの人生をより太く逞しいものに変容していくことになるでしょう。

つまり社会においても就職すれば会社での任務を背負い、それが自らの勉強になって経験や知識という知的財産として身につきます。背負わなければ自分のものにはなりません。地域においても様々な役割があって、そうして分担された役割を背負ってこそ勉強し経験を積み、それが他者や地域全体からの信頼

に変わっていくものと思います。

世の中には、生涯独身で過ごすという選択もあるでしょうし、現代社会ではそうした個々人の多様な価値観に基づく選択が尊重されています。その一方で、与えられた人生をより中身の濃い輝かしいものに彩るためには、それ相応の経験や知識を身につけること、それは「自ら進んで重荷を背負うこと」から始まるのだと思います。

受け身的に「背負わされる」のではなく、能動的に「背負うこと」が重要であり、その前向きな姿勢こそが自分自身の生き様の宝物になることでしょう。

お子様の健やかな成長をお祈りし、若いご夫婦の更なるご活躍とご家族円満で幸せいっぱい的人生を歩まれますことを期待いたします。』

という主旨のものだった。

ところでこの内容は、私たちの毎日の業務でも同じことが言えるのではないだろうか。

「自分に与えられた任務を責任をもってやればいい」という考え方は、それはそれで「正論」かもしれない。しかし職場で与えられた自分の荷物のみならず、隣の席で働いている同僚の荷物や、家庭における夫婦共有の荷物、親が残した荷物、地域社会で担がなければならない荷物、将来世代に受け継がせたい荷物など、私たちの身の回りにはたくさんものがある。

「自分がやらなくてもそのうち誰かが背負うだろう」という判断では、せっかく自分自身の人生をより太く逞しく輝きを放つ価値のあるものにするチャンスを見逃す結果になりはしないだろうか？

見た感じでは重そうな荷物も実際に背負ってみれば、そんなに耐えられないほど難しいものでもないことが多くある。一つ背負うも二つ背負うも同じ苦勞ならば思いきって一緒に担ぐことがより身に着くという判断もできるし、そのことによって自分自身が成長するのならば、モノやお金に替えられない尊い経験値を身につけることになるのではないだろうか。

5月のゴールデンウィークが過ぎた日に・・・。